

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	ベーシック数学(後)	後期2単位	6	6	3

使用教科書 なし (手作り参考書教材使用)

◇科目の目標

数と式・図形の学習のための基礎的事項を確認しつつ、四則計算を正確に行う力をつける。さらに図形から角度や辺の長さを求める力をつける。

◇科目の概要

「自然数・小数・分数・正負の数の四則計算」、「無理数」「文字式」「因数分解」「2次方程式」「三角形の辺と角」の基本。

◇学習の進め方

スクーリングでの参考書解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数学Ⅰの学習のために必要な基礎力をつけるための科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容
1	10/11・12	1	自然数の四則計算・小数と分数
2	10/19・20	2	正負の数の四則計算
3	11/1・2	3	無理数・根号を含む数と式
4	12/6・7	4	文字式の計算
5	12/20・21	5	因数分解・1次方程式・2次方程式
6	12/27・28	6	三角形の辺と角

◇テスト範囲

後期中間テスト	レポート 1, 2, 3	後期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学Ⅰ①	前期2単位	6	10	3

◇科目の目標

中学までの復習から始め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方を認識できるようにする。

◇科目の概要

「基礎的な計算」、「1次方程式・不等式」、「2次方程式と2次関数」の基本と応用。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数Ⅰは必修科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/26・27	1	基礎的な数の計算の復習	P 4～35
2	5/ 3・ 4	2	文字を使った式の計算、乗法公式	P36～41
3	5/10・11	3	因数分解と実数	P42～45
4	5/17・18	3	因数分解と実数	P46～51
5	5/24・25	3	因数分解と実数	P51～56
6	6/21・22	4	実数、方程式と不等式、2次方程式	P57～68
7	6/28・29	4	2次方程式	P68～71
8	7/ 5・ 6	5	1次関数、2次関数とそのグラフ	P74～87
9	7/12・13	5	2次関数とそのグラフ	P87～91
10	7/19・20	6	2次関数の最大値・最小値、共有点	P92～97

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書 東京書籍 「新数学Ⅰ」「新数学Ⅰ 解答編」

2	東書	数Ⅰ 704
---	----	--------

2	東書	数Ⅰ 705
---	----	--------

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学Ⅰ②	後期2単位	6	10	3

◇科目の目標

中学までの復習から始め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方を認識できるようにする。

◇科目の概要

「基礎的な計算」、「2次不等式」、「三角比」、「データの分析」、「集合と論証」の基本と応用。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数Ⅰは必修科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/11・12	1	基礎的な数の計算の復習、2次不等式	P4-11, P48-52 P96-98
2	10/19・20	1	2次不等式	P98-101
3	10/25・26	2	三角比、相互関係	P104-113
4	11/1・2	2・3	相互関係、三角比の応用(面積、正弦定理)	P114-119
5	11/8・9	3	三角比の応用(余弦定理、余弦定理の変形式)	P120-121
6	12/6・7	4	鈍角の三角比	P122-125
7	12/13・14	5	データの分析(度数分布表、ヒストグラム、相対度数)	P130-135
8	12/20・21	5	データの分析(代表値、偏差、分散、標準偏差)	P136-141
9	12/27・28	6	集合と論証(集合、命題)	P150-155
10	1/10・11	6	集合と論証(命題、必要十分条件、証明)	P155-159

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書 東京書籍 「新数学Ⅰ」「新数学Ⅰ 解答編」

2	東書	数Ⅰ 704
---	----	--------

2	東書	数Ⅰ 705
---	----	--------

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学A	前期2単位	6	8	3

◇科目の目標

場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

◇科目の概要

場合の数と確率、平面図形の基本を身につける。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

予習をして、わからない所をスクーリングで聞くようにしましょう。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5/ 3・ 4	1	集合、共通部分と和集合、補集合、要素の個数、和の法則、積の法則	4～11
2	5/10・11	2	順列、階乗、重複順列、円順列	12～17
3	5/17・18	2 3	組合せ、組合せの応用 確率の基本、排反事象と和事象、余事象	18～21 22～29
4	5/24・25	3	独立な試行の確率、反復試行の確率、条件つき確率、期待値	30～37
5	6/21・22	4	相似、中点連結定理、三角形の重心・外心・内心	40～57
6	6/28・29	5	角の二等分線、円周角の定理、円周角の定理の逆	60～61
7	7/12・13	5・6	円に内接する四角形、四角形が円に内接する条件	62～63
8	7/19・20	6	円の接線、接弦定理（接線と弦のつくる角）、方べきの定理、正多角形	58～59 64～75

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書 東京書籍 「新数学 A」 「新数学 A 解答編」

2	東書	数 A 704
---	----	---------

2	東書	数 A 705
---	----	---------

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学Ⅱ①	前期 2 単位	6	10	3

使用教科書	東京書籍	「新数学Ⅱ」	2	東書	数Ⅱ 717
		「新数学Ⅱ 解答編」	2	東書	数Ⅱ 718

◇科目の目標

基礎的な知識の取得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

数学Ⅰに続く内容として、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数について学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

各レポート1枚分の内容が多いので、予習をしてから、スクーリングを受けるようにする。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	4/26.27	1	複素数	12～15
2	5/ 3. 4	1	2 次方程式、解の判別、解と係数の関係	16～19
3	5/10.11	2	整式の除法と因数定理、高次方程式	20～26
4	5/17.18	3	直線上の点の座標、平面上の点の座標	34～43
5	5/24.26	3	直線の方程式、2 直線の関係	44～51
6	6/21.22	4	円の方程式、円と直線	52～56
7	6/28.29	4	不等式・連立不等式の表す領域	58～63
8	7/ 5. 6	5	三角関数の一般角と相互関係	66～71
9	7/12.13	6	三角関数のグラフ	72～75
10	7/19.20	6	三角関数の性質、加法定理、弧度法	76～82

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。 観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。

よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。

レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。

出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学Ⅱ②	後期2単位	6	10	3

使用教科書	東京書籍	「新数学Ⅱ」	2	東書	数Ⅱ 717
		「新数学Ⅱ 解答編」	2	東書	数Ⅱ 718

◇科目の目標

基礎的な知識の取得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

指数・対数関数と微分・積分について学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

各レポート1枚分の内容が多いので、予習をしてから、スクーリングを受けるようにする。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	10/11.12	1	指数の拡張	86～91
2	10/19.20	1,2	指数関数のグラフと指数関数の利用	92～95
3	10/25.26	2	対数、対数の性質	96～99
4	11/ 1. 2	2,3	対数関数とそのグラフ、性質	99～101
5	11/ 8. 9	3	常用対数	102～103
6	12/ 6. 7	4	平均変化率、極限值と微分係数	106～109
7	12/13.14	4	導関数と接線の方程式	110～115
8	12/20.21	5	関数の極大・極小、最大・最小	116～122
9	12/27.28	5,6	不定積分	124～127
10	1/10.11	6	定積分、面積	128～132

◇テスト範囲

後期中間テスト	レポート 1, 2, 3	後期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。 観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。

よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。

レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。

出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数学	数学B	通年2単位	6	8	3

◇科目の目標

数学Ⅰ・Ⅱ・Aより進んだ内容を理解し、合わせて基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、データを数学的統計に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

これまでより進んだ内容のいろいろな数列、統計的な推測について学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

学習書がないので、機会があるごとに副教材の参考書を利用する。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5月 3日・4日	1	等差数列・等比数列	9～22
2	5月 10日・11日	2	和の記号Σ	24～29
3	6月 28日・29日	3	階差数列	30～33
4	7月 19日・20日	3	漸化式	34～36
5	10月 19日・20日	4	確率分布	46～53
6	12月 6日・7日	5	確率分布・確率密度関数	54～61
7	12月 20日・21日	6	正規分布	63～66
8	1月 10日・11日	6	母集団と標本	69～74

◇テスト範囲

後期期末テスト	レポート1～3	後期期末テスト	レポート4～6
---------	---------	---------	---------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。

観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

◇使用教科書

数研出版 「新 高校の数学B」